

国選定保存技術の選定及び保持者の認定について

国の文化審議会（会長 ひびの 日比野 かつひこ 克彦）は、令和8年7月17日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、次のとおり選定保存技術の選定及び保持者の認定について、文部科学大臣に答申しました。

今回の答申のとおり告示されると、横浜市内の国選定保存技術は2例目、保持者は2名となります。

年齢は令和8年7月17日現在

選定保存技術	保 持 者		
名 称	氏 名	生年月日（年齢）	住 所
（有形文化財等関係）			
くみひも 組紐（クテ うち 打）製作	にしおか 西岡 ちづる 千鶴	昭和29年3月3日 （満72歳）	横浜市

くみひも
組紐（クテ うち 打）製作 にしおか
西岡 ちづる
千鶴

今回初めて「組紐（クテ打）製作」を選定保存技術に選定するとともに、西岡氏をその保持者として認定するものです。

※写真は文化庁提供



（西岡 千鶴 氏）



（製作の様子）

裏面あり

GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



1 選定保存技術の選定について

(1) 名称

組紐（クテ打）製作

(2) 選定保存技術の概要

組紐は、^{かつちゅう}甲冑や刀剣、^{かんす}掛軸や巻子等の表具、調度品や仏具などに用いられ、実用的な役割を果たしながら、美しい色彩や文様によって器物を装飾しているが、とりわけ甲冑には、^{おどしいと}威糸を始め、各部を着装するための紐など多くの組紐が用いられる。各時代において様々な品質・構造をもつ華麗な組紐が製作、使用されたことから、組紐は文化財（美術工芸品）の修理や復元には欠かせない材料となっている。

現在、一般に行われている台を用いた模造組紐製作は近世から主流となったもので、古代から中世にかけて行われていた技法はクテ打と呼ばれている。これは糸の一端を輪にしたもの（組手）を手に持ち、かつては複数人が綾を取るように組んでいた技法で、丸紐や角紐、複雑な文様の紐を組むことも可能である。広い作業場所と、多くの人手を必要とすることなどから次第に廃れ、一時途絶えた技法である。

文化財修理に用いる組紐を製作するためには、修理対象となる文化財に当初から使われている紐をよく観察し、その組織を正確に理解する必要がある。また、糸の品質や染料についての専門的な知識も不可欠となる。現在、文化財修理にふさわしい、クテ打による組紐を製作する知識と技術を持つ技術者は極めて少なく、早急に保存の措置を講ずる必要がある。

2 保持者の認定について

(1) 保持者

氏 名 西岡 千鶴

生年月日 昭和 29 年 3 月 3 日（満 72 歳）

住 所 横浜市

(2) 保持者の特徴

同人は、組紐（クテ打）製作に精通し、その卓越する技術は高い評価を得ている。甲冑の修理や復元模造に用いる組紐を中心に多数の実績を残している。また、後進の指導・育成に尽力している。

次頁あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



(3) 保持者の概要

同人は、西岡 文夫（^{にしおかふみお}（令和4年選定保存技術「甲冑修理」保持者※）の配偶者としてその仕事に触れる中で、西岡甲房の甲冑修理で用いる組紐製作を学ぶため、^{どうみょう}道明の組紐教室に通い、技術を習得した。その過程で、実際の甲冑に用いられている組紐と、当時一般的であった台を用いて製作したものとの差異に気づいた。その後クテ打研究で知られる^{きのしたまさこ}木下 雅子 と出会い、研究会等に参加してクテ打の理論を実践することに力を注いだ。クテ打による組紐製作は、本来複数人で行うところ、一人で製作するための台を独自に工夫するなど、技術の改良と錬磨に努めた。また、東京農工大学工学部附属繊維博物館（現東京農工大学科学博物館）主催の絹研究会にも参加し、甲冑威糸の分析を専門家に依頼するなど、原材料である絹糸についても探求を深めている。

同人の組紐製作は、主として西岡甲房での甲冑修理や復元模造製作中で行い、技術の研鑽を続けている。その他、巻子の^{まきお}巻 緒 や掛幅の^{かけお}掛 緒 など、装潢^{そうこう}関係の組紐も手がけており、文化財（美術工芸品）修理においては欠くことのできない技術者となっている。また、近年は二人の後継者に組紐（クテ打）製作を指導しており、後進の指導・育成に尽力している。

以上のように、同人は組紐（クテ打）製作の技術を正しく体得しており、かつ、これに精通している。

※令和4年度記者発表資料

「国重要無形文化財及び国選定保存技術の保持者の追加認定について」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/kyoiku/2022/bunkazai20220722.html>

※本件記者発表は、国（文化庁）及び神奈川県においても同時に行われます。

お問合せ先		
生涯学習文化財課長	粕谷	Tel : 045-671-3236



GREEN x EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

